

第1学年 道徳科指導案

日 時 令和5年6月16日(金)

子ども 1年瀏向学級 28名

指導者 瀏 向 大 輝

I 主題名・内容項目・教材名

<授業の見どころ>

主題名 わがままを おさえて
内容項目 A3 節度・節制
教材名 かぼちゃのつる
(新・みんなのどうとく1年「学研教育みらい」令和5年度版)

子どもたちが対話し、考えを広げたり、深めたりしながら、他の人の迷惑にならないこととは何か見出していきます。

II 主題の指導構想

1 主題について

- 入学してから、約2ヶ月経った1年生の子どもたちは、小学校生活や友達関係にも慣れ初め、伸び伸びと活発に行動するようになってきた。また、保育園や幼稚園が異なる友達同士でもかかわる姿が見られ、交友関係にも広がりが見えてきた。

発達段階の過程として、1年生の児童は、自分を中心に物事が動いているようにとらえる傾向がある。そのために、子どもたちは自分本位の行動をとりがちで、そのことが友達や回りの人を困らせていることにまで考えが及ばないことが多い。実際に、遊びのルールを守らず自分の欲求を押し通そうとしてトラブルとなり、友達や教師から注意を受けて一旦は反省するものの、再びわがままな気持ちを抑えきれず同じような失敗を繰り返す児童もいる。

そこで、誰かが痛い思いをしたり、嫌な気持ちになったりすることは自分勝手な行動によって引き起こされることや、自分のわがままな振る舞いが他人に迷惑をかけてしまうことがあることを自覚させ、わがままな気持ちを抑えて円滑な集団生活や人間関係を営もうとする心情をこの時期に育てていきたいと考える。

- 学習指導要領に示されている内容項目「A3 節度・節制」の低学年の内容は、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大事にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」となっている。

本主題は、自分のわがままな気持ちを我慢し、規則正しい生活を送ることに関するものである。

今回のわがままについて考察してみると、わがままとは、「相手・まわりの者の意に反して、無理な事でも自分がしたいままにすること」という意味がある。自分のしたいことを進んで行うことは、わがままにはあたらない。しかし、周りの人の意見や考えを受け入れず、自分が思うままに行動することや自分勝手に物事を考え、他者に迷惑をかけてしまうことはわがままにあたる。

また、わがままを通すことは、きまりやルールを破ることにともつながり、自分にも不利益を生じてしまうこともある。よって、わがままを通すことは、他者だけでなく、自分にも迷惑がかかる行為である。

本教材では、自分がしたいこと思うままに行動に移す様子が見られる。誰しも、自分がしたいことを思うままに行いたいという欲求はあるが、本主題においては、周りのことを考えることができていないこと、そして、周りから注意を受けているにも関わらず、自分が思うままに行動していることに問題がある。自分の事だけを考えるのではなく、どのように周りの人と関わり、判断することが自分のため、ひいては相手のためになるのかを考えた学習にしていく。

幼稚園や保育園を卒園し、学校生活にも慣れ、友達との関係も深めつつ学習している。これらの「学びの文脈」を生かして、日頃から、勝手気ままに振る舞うことを控えて、お互いを尊重し合いながら生活していくことの重要性や人の忠告に素直に耳を傾けることの必要性、自分の勝手な振る舞いが集団生活や人間関係に支障をきたす原因となることに気付かせ、わがままな気持ちを抑えようとする心情を育てたい。

- 教材は、みんなの忠告に耳を貸さなかったかぼちゃが、最後に痛い思いをするという内容である。注意されてもわがままを押し通したかぼちゃの気持ちを自分自身の生活経験と重ね合わせながら考えることにより、人の忠告を素直に聞くことの大切さを自覚させ、わがままな気持ちを抑えながら集団生活を営むといった、節度ある生活をしようとする気持ちを高めさせたい。

2 指導の構想

A 主として自分自身に関すること 3 節度・節制

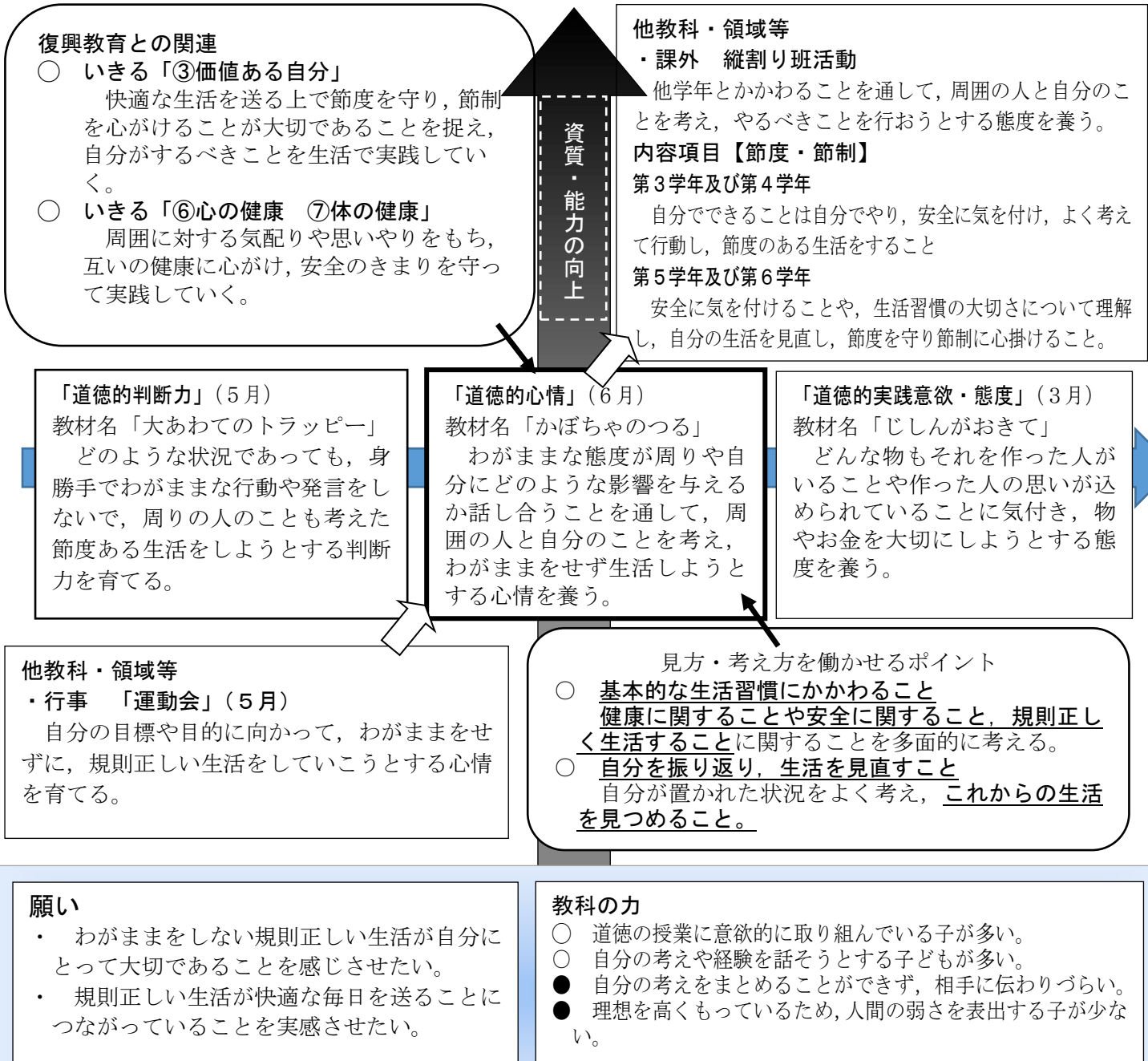
健康や安全に気を付け、物や金銭を大事にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする
こと

道徳性の諸様相

	道徳的判断力	道徳的心情	道徳的実践意欲と態度
	自分自身を自制し、わがままをせず、規則正しい生活をしようとする判断力を育てる。	自分自身の身の回りに目を向けながら、わがままをせず、規則正しい生活をしていこうとする心情を育てる。	身の回りを整えて気持ちのよい生活をしていこうとする態度を養う。

<目指す子ども像>

- ・ 自分勝手な思いや行動をおさえ、周りのことを考えながら規則正しい生活をする子ども。
- ・ 自分が置かれている状況を考え、周りの人からの注意を受け入れながら、実践する子ども。



3 本時の指導構想

- 児童はこれまで、道徳の授業と日常生活をつなげながらよりよい健康や安全に気を付け、自立した生活ができるようになるための基本的な生活習慣を身に付けること、節度をもって節制を心がけた生活を送ることについて経験を通して学んできた。道徳の授業では、周囲に対する気配りや思いやりをもち、互いの健康に心がけ、安全のきまりを守って実践することは、気持ちのよい生活を送る上で必要な事であると学び、実際に日常生活や学校行事などで学びを生かすことができている。

それを生かし、A 主として自分自身に関すること 3 節度・節制では、基本的な生活習慣を身に付けておくことが、快適な生活を送るために大切なことであることや他者の考え、意見を素直に受け入れることでよりよい生き方を目指すことができることにつながっていくことを理解させていく。自分のしたいことをしたり、思うがままに生活したりしようとする弱い心と向き合いながら、正しい考え方や行動は一体何なのか考える授業を展開していく。

- 指導に当たっては、次の二点に留意する。

【手立て1 子どもの実態に沿った導入と価値の主体化（「学びの文脈」のデザイン）】

① 子どもの思いや問題意識を生かした学習テーマ

まずは、教材への導入についてである。かぼちゃの成長過程が分かる写真を見せ、つるがどんどん伸びていく様子を捉えさせる。成長が早いかぼちゃを写真を通して気付かせた後、本時の物語の主人公であるかぼちゃの紙板書を提示し、教材への導入を図っていく。また、子ども達がかぼちゃの気持ちに自我関与しやすいよう、話に合わせて登場人物の挿絵や言葉を提示し、子ども達と教材をつないでいく。

② よりよい生き方を目指した主体化での話し合い活動

価値の主体化では、学んだことを生かし、未来志向の展開をしていく。教材を通して、立場や状況、雰囲気を考えながら、「学んだことから、どうすることがよいのか」出し合い、価値意識を共有していく。その際、「今日、学習して、自分がやりたいことがあった時には、どうしたらよいと思いますか。」と、自分の気持ちを問う発問を投じることで、自分の心と向き合わせていく。他の児童の所作や表情を見ながら、考えをつないだり、深めたり、対立させたりすることで、わがままをしないことは、自分と周囲の人の双方が気持ちよく生活することにつながることに気付かせていく。

【手立て2 多様な考えに触れながら、自分の考えを明確にする話し合い活動

(よりよく学ぶ3つの視点「つなぐ」「えらぶ」「つかう」)

多様な考えを生み出す話し合いと教材と自己をつなぐ問い返し

はじめに、言語活動についてである。主人公であるかぼちゃの気持ちに主眼を置きながらも、かぼちゃを心配する周りの登場人物にも目を向けさせていく。動作化や役割演技でかぼちゃと他の生き物の言葉を表出しながら、その時に感じた気持ちを発言させることで、わがままを言う方と言われる方の、双方ともよい気持ちではないことを押さえる。自分の考えを明確にもった上で、それぞれの立場から多様な意見を出させることで、かぼちゃの気持ちを想像させたり、わがままな行為をすることでどのような影響があるのか話し合わせたりし、ねらいにせまっていく。

次に、本時のねらいに迫るために、「どうして、かぼちゃは涙を流しているのでしょうか。」と発問することで、トラックに轢かれた痛さや悲しみよりも、周りの生き物の言葉を受け入れなかった後悔や自分のしたいことをし続けた申し訳なさを出させていく。「痛いから涙を流していたのかな。」「悲しいという気持ちの他にどんな気持ちがあったのかな。」「かぼちゃは生きるためにつるを伸ばしてはいけなかったのかな。」など、補助発問を投じることでねらいに迫っていく。この時に、かぼちゃの視点と周りの生き物の視点、周りの環境の状況や環境の視点に分類しながら板書することで、子どもたちの思考をまとめ、ファシリテートしていく。

III 本時の指導構想

1 目標

わがままな態度が周りや自分にどのような影響を与えるか話し合うことを通して、周囲の人と自分のことを考え、わがままをせず生活しようとする心情を養う。

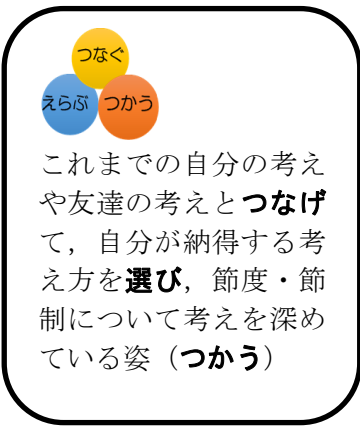
2 見取りの視点

わがままな態度をとることによって、周りにどのような影響があるのか、自分との関わりで考えることができたか。

<特に個に応じた支援が必要な児童への手立て>

意図的に動作化や役割演技をさせ、その時の発言や行動を授業の柱としていく。教材に自我関与させることで、教材の主人公を通して、自分の考えを表出させるようにする。

3 展開の概要

段階	時間	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	研究にかかわる手立て ◇	指導上の留意点 【評価】
問題の把握	5	1 教材への関心をもつ ○ かぼちゃのつるはどのくらい伸びるか知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> とてもよくのびる。 あまりのびない。 よくわからない。 	◇【手立て1 子どもの実態に沿った導入と価値の主体化(学びの文脈)】 ① 子どもの思いや問題意識を生かした学習テーマ <ul style="list-style-type: none"> 今までの経験や体験を想起させたり、既存の価値意識を表出させたりしながら、今回の主題である「わがまま」について、価値への方向性を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ かぼちゃの写真を見せ、つるが伸びることにかぼちゃが大きくなることに気付かせる。 ◆ 挿絵を用いながら場面状況を把握させ、整理する。
	7	2 教材を読んで感想を発表し、話合いの方向をつかむ。 ○ かぼちゃのことをどう思いますか。 かぼちゃは、どんな気持ちで涙を流していたのかな。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の場所じゃないところをつるを伸ばしたところは良くないと思う。 周りの生き物の注意を無視してつるを伸ばしたところが良くないと思う。 わがままだって言う気持ちも分かるな。 		
問題の分析・追求	12	3 つるを伸ばし続けるかぼちゃの気持ちについて話し合う。 ○ かぼちゃはつるを伸ばしているとき、どんな気持ちだったでしょう。 ○ かぼちゃはみんなの注意を聞いて、どう思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 楽しいな。 気持ちがいいな。 もっと自分のつるを伸ばすぞ。 他の場所にもひろげるぞ。 自分が一番のびるんだ。 うるさいな。 少しくらいいいじゃないか。 だれも困ってないんだからいいんだ。 もっともつるのびるぞ。 のびたいんだからのばせてくれよ。 	◇【手立て2 多様な考えに触れながら、自分の考えを明確にする話合い活動(よりよく学ぶ3つの視点「つなく」「えらぶ」「つかう)】 多様な考えを生み出す話合いと教材と自己をつなぐ問い返し <ul style="list-style-type: none"> かぼちゃを児童、周りの生き物を教師として、役割演技を取り入れ、かぼちゃがどのような気持ちだったか共感させる。 「周りの生き物が注意してくれたのに、やめなかったのはどうしてでしょう。」と切り返し、周りのことより、自分中心で考えてしまったことを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ かぼちゃが周りの生き物に注意されても、なおつるを伸ばし続けた気持ちとつるが切れてしまった気持ちを対比させ話合いの方向をつかむ。 ◆ 周りのことを考えず、自分の事ばかりを考えてしまった心の弱さに気付かせる。 ◆ 周りからの注意があったにもかかわらず、自分のしたいことをし続けるかぼちゃとかぼちゃの事を思って注意する周りの生き物の気持ちを板書に位置づける。
	13	4 かぼちゃが涙を流した理由を話し合う。 ◎ かぼちゃは、どんな気持ちで涙を流しているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 痛いよう。 トラックが悪いんだ。 こんなところまで伸ばさなければよかった。 みんなの言うとおりでよかった。謝りたいな。 		
価値の感得・理解	8	5 これまでの自分の生活を振り返り、これからの生活に生かす。 ○ 今日、学習して、自分がやりたいことがあった時には、どうしたらよいと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> わがままだを言わないようにしたい。 注意されたら直したい。 自分のしたいことだけでなく、周りのことも考えて生活していきたい。 	 <p>これまでの自分の考えや友達の考えとつなげて、自分が納得する考え方を選ぶ、節度・節制について考えを深めている姿(つかう)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ トラックにひかれた時の痛さや悲しみよりも周りの注意を受け入れずに、自分のしたいことをし続けてしまった後悔に共感させる。 ◆ つるを伸ばすことは悪いことではないが、伸ばした場所や周りへの影響を考えられなかったことについても捉えさせていく。 ◆ わがままだをしないことは、自分と周囲の人の双方が気持ちよく生活することにつながることに気付かせていく。
		6 教師の話を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> 自分がしたいことをやっていいかどうか考えて、がまんする気持ちを大切にしていきたいと思います。 		
価値の主体化				◇【手立て1 子どもの実態に沿った導入と価値の主体化(学びの文脈)】 ② よりよい生き方を目指した主体化での話合い活動 <ul style="list-style-type: none"> これからどのような気持ちで生活していくか話し合わせ、自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自身の生活を想起させ、これからの生活をどのようにしていくか発表させる。 ◆ 日常生活から、教師が見取った姿を紹介し、自己肯定感を高めていく。